

第72次印旛地区教育研究集会

第4部会安全教育研究部提案資料

My安全ブックを作ろう

～八街市通学時安全対策事業による

研究指定を受けて～

八街市立二州小学校 川津 亮太

令和4年度印旛地区教育研究会
安全教育研究部 第4部会提案

八街市立二州小学校
川津 亮太

1 概要

八街市立二州小学校は令和3年度に八街市通学時安全対策事業の指定を受け、研究を行った。その研究の内容と成果・課題を提案する。

2 研究主題

児童の安全な登下校や道路の歩き方を実現するために、安全意識を高めるにはどうすればよいか。

3 主題設定の理由

学校は、児童の健やかな成長と自己実現を目指して学習活動を行うところである。児童への安全教育を積極的に実施することで、危険を予測し、回避する能力を身に付けさせることが今般、重要な課題となっていることから設定した。

4 八街市通学時安全対策事業について

学校管理下において、教職員及び保護者の目が最も届きにくい登下校時の安全確保を図るため、スクールバス運行等の効果可能性について検証する。

- (1) 学校安全の活動を推進する体制を整備し、中核となる教職員の役割及び資質能力の向上に係る取り組みの促進を図る。
- (2) 関係機関等と連携し、学校安全に関する校内研修を実施し、教職員の資質向上を図る。
- (3) 自校で得た取り組み内容や成果を広く周知し、市内全域の安全教育の推進に努める。

5 研究の方向性

八街市立二州小学校は、令和3年9月から八街市通学時安全対策事業の一環として、スクールバスの運行が開始され、従来よりも安全に登下校できる環境が整備された。しかし、環境面だけではなく、児童自身が自らの意識を高めたり、生きる力を育んだりするための取り組みがさらに必要である。このような知識・態度面が環境面と一体になることではじめて、安全教育が推進されると考える。そこで、知識・態度面を育むため、学区安全マップを作る活動を行う。なじみ深い学区や通学路を、交通安全の視点からもう一度見直すことで、児童一人一人の安全意識を育てられるのではないかと考えた。

6 研究の内容

第4学年・総合的な学習の時間で「My安全ブックを作ろう」という単元を設定した。千葉県教育委員会が発行した「学校安全の手引」をもとにレジュメを作成し、安全3領域について学ぶ。特に交通安全についてはレジュメによる指導と学区安全マップを作る活動の2本立てとした。学区安全マップは模造紙4枚分の大きさに拡大したに学区の地図の上から写真と児童のコメントを貼付したものである。

学区安全マップ作りは、八街市教育委員会から貸与されたスマートフォンに専用のアプリケーション（立正大学・原田 豊教授による「聞き書（が）きマップ」）をインストールし、写真と音声を記録する。この写真と音声にはGPS機能と連動し、いつ・どこで記録されたものかがわかるようになっている。12月に校外に出て調査を行った。1つのグループに対し、1人以上の大人が引率した。そのデータを基に、見つけてきた危険個所を一人一台端末上で整理・分析し、大きな紙のマップにまとめた。

7 日程

とき	内容
令和3年9月	八街市立二州小学校スクールバス運行開始
令和3年10月	八街市教育委員会よりスマートフォン端末貸与
令和3年12月	児童実地調査（8日・10日）
令和4年1月	14日、第四部会安全教育研究部主催の公開授業を行う

8 成果と課題

(1) 児童の感想

- ・ 危険なところが意外といっぱいあるのだなと思った。
- ・ 意外にも危ない場所が何個もあったからびっくりした。これから帰るときは危険な所に気をつけて歩きたいです。
- ・ 安全な環境を作るということは簡単じゃない。
- ・ 二州学区の危険な場所が分かった。自分の通学路に、こんなに危険な場所があると気づいてびっくりした。
- ・ 歩き通学のときは危険な場所をそんなに気にしていなかったけど、改めて見てみると危険な場所がたくさんあったので気をつけようと思いました。
- ・ いろんな地区の危険な場所を発表してもらっていろんな地区の危険な場所がわかりました。これから、反射材をつけようと思いました。
- ・ 他の地区も危険なところがたくさんあることがわかった。
- ・ 身の回りには、危険がたくさん潜んでいることがわかった。

(2) 研究主題に対して

行政や地域社会による環境面の整備だけではなく、児童自らの知識・態度面を育むために学校でできることとして、学区安全マップを作る活動を行った。なじみ深い学区や通学路を交通安全の視点から、もう一度見直すという児童への安全教育を積極的に実施した。具体的には、学習の中で、スマホ端末を用いた実地調査や、一人一台端末を用いたマップ作りをすることであり、このことで安全意識を高めることができる。その結果、児童一人一人の安全意識は育てられたといえる。

(3) 課題

- ・ 実地調査用スマホ端末の台数と期間・・・実践した年度は20名/10台だったが、規模の大きな学年で一人一人に実感をもたせられる指導がどの程度可能なのか？
- ・ 安全マップへのまとめ方・・・規模の大きな学年で紙のマップにまとめることには限界がある。100人いたとして100枚の写真と100枚のコメント（付箋）は不可能。Web上でまとめることはできないか。

令和4年度は八街市内すべての小学校で学区安全マップ作りに取り組む予定となっており、このような課題に対して実践と改善に取り組んでいく。

資料編

二州小学校通学区



○マップをつくるためにやったこと

交通安全について学びました。道路を歩いたり、車を運転したりするときにはルールがあり、それを守ること。そして、それを守っていればルールが自分を守ってくれることです。私たちの学区の道は狭い道や車の往来が多い道が多いので、自分たちの通学路でそういうところがどこなのか、携帯電話のアプリケーションを使って調査に行きました。

○完成したマップがどんなものか紹介

調査の前に、私たちの学区を8つのエリアに分けました。そして、そのエリア1つにつき、5つの危険な個所を選びだします。そして、その箇所1つ1つに「どのような危険があるのか」「どのように歩けばいいのか」について、付箋と写真を貼り付け、全校のみんなに知らせるものとなりました。令和4年度の交通安全の学習にすべての学年で役立ててほしいです。

○マップ作成に携わって感じたこと、思ったこと

私は安全マップを作る学習を通して、毎日歩いているところにたくさん危険な場所があることを知りました。たとえば、小学校前の交差点では、車の往来が多く、信号無視をする車もあって、危険だなと思いました。

マップを活用し、横断歩道ではしっかり手を挙げて渡り、安全ぼうしをかぶって自分の存在を知らせるようにしようと思いました。ドライバーのみなさんには、しっかりとまわりを見て、安全ぼうしが見えたらスピードを落としてほしいです。地域や行政のみなさんには、私たちが作成したマップを見て、危険な場所を減らす取り組みを進めてほしいです。

